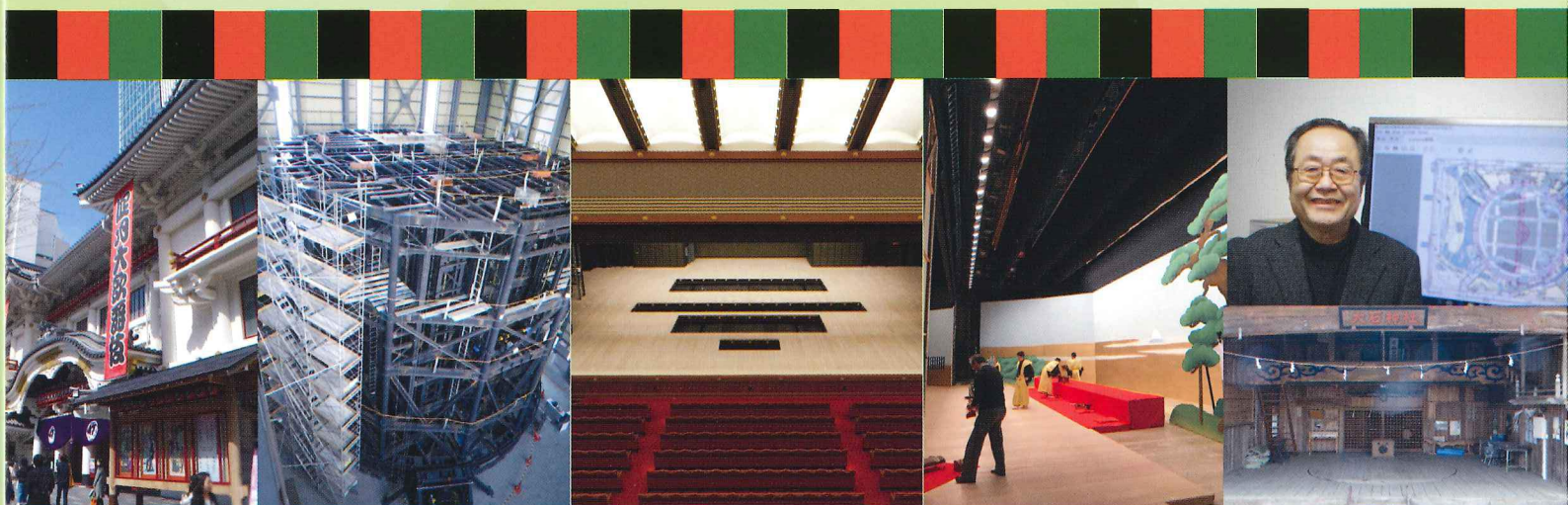


一般社団法人 日本劇場技術者連盟誌

No.

5



劇場見聞録

歌舞伎座

Special Interview

舞台音響家 松木哲志氏

文化創生芝居小屋シリーズ

大石神社の神楽殿 ～旧藤野町の農村歌舞伎～

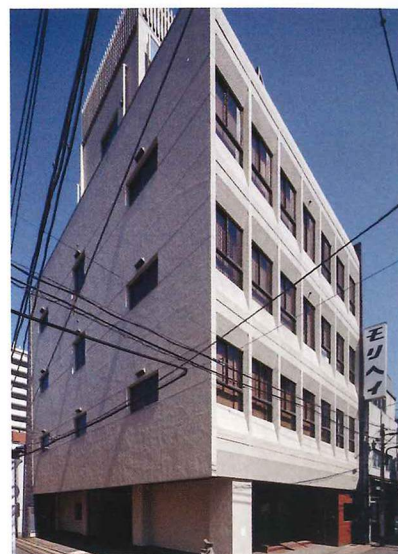
法人会員のご紹介

森平舞台機構株式会社

第2回 森平舞台機構株式会社

森平舞台機構株式会社は、明治39年に初代、森平右衛門氏によって創業され、2006年には創業100周年を迎えています。劇場舞台機構の設計施工を得意業務とし、大国座(四谷)・市村座(下谷)・宮戸座(浅草)・寿座(本所)・国技館(本所)その他、各博覧会等の設備工事を手がける一方、舞台用備品を製作納入してきました。戦後は先々代、森啓氏のもと近代技術を駆使し、浅草国際劇場の復旧工事を手はじめに、数々の劇場、文化会館、ホール、テレビ・スタジオ等の設備一式を設計施工してきました。近年は、エレクトロニクス技術を取り入れた操作方法を含め、ニーズに合わせて最新の技術を駆使し、適した設計をしています。安全で使いやすく、耐久性に優れた舞台設備を創造することを基本姿勢としています。

【商号 Morihei 由来】初代の森平右衛門(Morihei Uemon)によって森平商店(Morihei Shoten)として発足しました。今日においても、創業時の店名を生かし、商号をMoriheiとしています。



東京・浅草にある本社

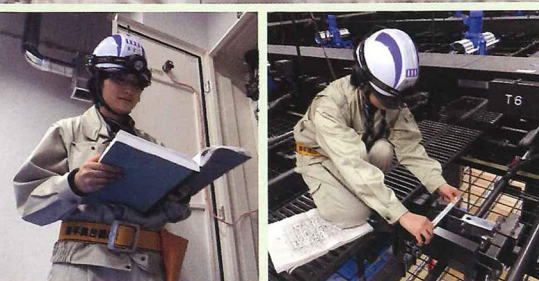
STAFF Interview

社員定着率98%という高い数値を誇るMorihei。これは、安定した企業実績と働きやすい職場環境の成せる業でしょう。またイキイキとした素敵な女性が活躍されているのも、Moriheiの魅力です。そんなスタッフを代表して今回は昨年入社された増子紗織さんより、入社の動機から日々の業務について、またMoriheiの魅力についてお話をいただきました。



大きな会社では
ありませんが、その分、
一人一人が活躍できる。
そんな会社だと
感じています。

増子紗織さん
技術部



現場でも頑張っています!!

入社の動機は?

高校時代は演劇部、大学ではジャグリングサークルに所属しており、ステージの制作にも関わってきていました。舞台が好きでしたので、漠然と劇場に関わる仕事に就けたら良いと考えていました。就職活動をする中で、それまでは、舞台機構メーカーの存在は知りませんでしたが、Moriheiの求人を目にし、劇場に関わる仕事ができるのではないかと会社説明会に参加したのがきっかけです。説明会では東京文化会館の裏側を見学し、スノコや機構など、舞台の全く知らなかった側面に触れ、もっと知りたいと感じ、入社を希望しました。

現在は、どんなお仕事をされていますか?

入社してまだ半年足らずなので研修中ですが、今は静岡のテレビ局のスタジオ現場に常駐しています。初めて現場での仕事を経験しましたが、舞台機構がどのように作られて行くのか、様々な進行方法や形があると思うので、これからもっとたくさんの現場を見てみたいと強く感じています。

辛いことや楽しいことは?

大学では、応用物理学を学んでいたのですが、仕事に直接役に立つような知識を学んでおらず、そのことに対する焦りや不安を感じる事が辛かったです。しかし、上司や先輩方にいろいろ教えていただき、今は新しい分野を学ぶ事の楽しさの方が勝っています。

これからの目標はありますか?

設計がバリバリできたり、技術的な知識が豊富になれば良いとは思いますが、今はまず、挨拶など、人と人との関わり方がきちんと出来る人間になりたいと感じています。そういう当たり前の事がきちんと出来る先輩方が身近にたくさんおり、憧れています。当たり前の事がきちんと出来る事が、仕事を効率良くこなしていくことにも繋がると感じているので、まず第一の目標にしたいと思っています。

Moriheiはどんな会社だと思いますか?

皆さん普段からとても仕事に真剣に取り組まれているので、緊張感のある職場です。小規模な会社ではありますが、その分、一人一人が活躍することが出来る場がある、そんな会社だと感じています。

NEW PROJET 秩父宮記念市民会館

●設計思想

秩父宮記念市民会館は市役所に併設しているホールで、ホール棟、庁舎棟に分かれて建設が進みました。舞台機構としてはフライギャラリーに制御盤、マシンギャラリーに巻上機が配置され、すのこ面では滑車上吊り式とすることで、作業性を考慮した設計になっています。舞台下手袖壁面にはコネクターボックスを配置し、移動型の操作卓からケーブルを接続して吊物装置を操作する仕様となっています。コンサート時の音響効果を高める音響反射板装置や和物の演目に対応するため、メッセンジャーワイヤー方式の定式幕や仮設花道を備えています。ホールの内装や舞台の床材には地元産の木材が使われています。

●取組みに対する考え方

発注図の仕様通りのものを納めるために、詳細な施工図、製作図を作図していきましました。詳細図が無いものについては、発注の仕様を汲み取り、舞台の安全性や使い勝手が良くなるように検討・作図し、監理者と協議・修正を繰り返して進めていきました。

●楽しかったこと

コストや強度、作りやすさ、施工性、安全性、使い勝手などを考慮しながら、製作図という形でアイデアを具現化したことです。細部の納まりに自分の魂が宿るようで、ものづくりの醍醐味がありました。

●苦労したこと

舞台袖やすのこ上など機器が密集する場所において、一般設備・音響・照明など他社様の機器と、自社製品を設置するスペース調整に苦労しました。総合図を作成し、図面上で干渉している部分を監理者の指示を仰ぎながら、調整をしていきました。

●伝えたいこと

私は先輩社員から『図面は商品だから、誰にでも分かりやすい綺麗な図面を描きなさい』と教わりました。私の実感としても、分かりやすく綺麗な図面は正誤のチェックもやすく、メリットが沢山あります。製作側とのミスコミュニケーションも少なく、完成した製品もどこか洗練されて見えると思います。



大河原 慧一さん
技術部実施設計

